

# 第12章 福島県教育センター

## 第1節 概要

教育センターは、本県の学校教育の向上・発展に寄与するために、教育に関する専門的・技術的な事項の調査研究を推進した。さらに、教育関係職員の研修をはじめ、情報処理教育、教育相談、教育図書・資料の整備、教育関連の情報提供等に関する事業を実施した。

これらの事業概要は、次のとおりである。

### 1 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、平成4年度福島県公立学校「教職員現職教育計画」に基づく各種の研修講座を実施した。

基本研修の初任者研修、経験者研修Ⅰ（教職5年経験）、経験者研修Ⅱ（教職10年経験）並びに、専門研修Ⅱ（各教科、道徳、特別活動、教育工学、生徒指導・教育相談、情報処理教育）と専門研修Ⅲ（学校経営、教育研究法）を実施した。

平成4年度の研修講座の実績は、次のとおりであった。

○講座数	46講座
○講座開設回数	88回
○講座研修者数	3,233人
○講座開設期間	平成4年5月18日～平成5年2月26日

### 2 研究事業

教育センターに課せられた研究機関としての役割と使命を達成するため、広く全国的視野に立って教育の動向を見定め、本県が直面している教育的課題や学校における教育実践上の諸問題に関連する研究主題を設定し、理論と実践の両面から専門的実践的に研究を推進した。

研究は、部単位のプロジェクトチームによる共同研究と各所員による個人研究とに分けられる。共同研究の成果は「研究紀要」としてまとめた。個人研究の成果は随時「所報」に掲載した。さらに、それらを平成5年2月19日に教育センターで行われた福島県教育研究発表大会において発表し、その成果を県内外に示した。

共同研究の研究主題は、次のとおりである。

- ① 個を生かす学年・学級経営に関する研究
- ② 一人一人の個性を生かす評価の在り方に関する研究
- ③ 児童生徒の創造性を高めるための教材開発
- ④ 開発的な指導援助の在り方に関する研究

### 3 教育相談事業

幼児及び児童生徒の知能学業、性格行動、身体反応、進路適性等の教育上の諸問題について、学校または、保護者及び本人からの教育相談に応じ、その解決・改善に向けてカウンセリング等による指導援助に当たった。幼児の相談は、計画（年間24回）に沿って、定期的にプレイセラピー（遊戯療法）を実践した。

今年度の来所相談の件数は233件で、延べ人数は、1,106

人、電話相談回数は、1,569回であった。

### 4 教育図書・資料事業

県内教職員の教育実践活動に役立つ教育図書・資料を提供するため、教育の専門図書・教育資料の収集・整理を行い、コンピュータを利用して検索の迅速化を図り、教育図書・資料の提供・活用を容易にしている。収集した教育図書・資料は、「所報」で紹介するとともに、教育資料の件名目録を作成し、教育庁関係機関及び県下小・中・高・養護学校に配布している。また、教育図書・資料の活用を図るため、郵送による貸し出しも実施している。

### 5 情報処理教育

公立学校の教員に対し、情報教育に関しての専門研修と情報リテラシーに関する基本研修を行った。その内容は、汎用コンピュータ及びパソコンLANシステムを使用したコンピュータ言語によるプログラミング、CAI教材の作成、図形処理（CAD）、表計算リフトの活用等に関するものであった。

また、高等学校の生徒に対しては、プログラミング、パソコンCAD、ワープロ等の実習を行った。

本センターの情報処理施設を利用した教職員は延べ7,067人であり、高等学校生徒は延べ1,164人であった。

## 第2節 教職員研修

教育センターにおける教職員研修は、基本研修と専門研修に位置付けられ、それぞれ次のとおり実施した。

### 1 研修講座の概要

- (1) 基本研修は、小学校・中学校・高等学校とも初任者、教職5年経験者、教職10年経験者を対象にした。

初任者研修の内容は、教科指導、生徒指導・教育相談、情報リテラシー及び教職一般に関するものなどで、小・中学校は2泊3日を1回、高等学校は学校教育と法令を加えて、前期・後期にわたり2泊3日を2回実施した。

経験者研修Ⅰ・Ⅱは、教科の特性を生かした指導法など経験年数を踏まえた内容で、2泊3日を1回実施した。

- (2) 専門研修Ⅱは、社会の変化に対応した教育活動の実践に資するために、教科指導、道徳、特別活動、教育工学、学校カウンセラー、情報処理教育等に関する各種の講座を実施した。

専門研修Ⅲは、教科等の指導力の深化、全校的視野や経営的視点での学校教育の充実を図るため、教育研究法、学校経営に関する講座を実施した。